

---

## 点描「アニメミュージカル」の世界

### ——現代日本の大衆音楽芸能における新潮流として

増山賢治 愛知県立芸術大学音楽学部教授（音楽学）

---

#### はじめに

アニメやコミックを原作としたミュージカル作品と言えば、1991年に初演された「聖闘士星矢」や、さらに古くは「ベルサイユのばら」（宝塚歌劇団により1974年初演）などが思い起こされるが、近年は各種メディアにおいて「アニメミュージカル」という呼称が出現しているように、そうした作品が林立し頻繁に上演されて1つのブームあるいは創作ミュージカルにおける新たな潮流の形成を思わせる様相を呈している。

例えば、『演劇プルミエ NO.1』（誠文堂新光社、2009年1月1日）の「日本でミュージカルを出しているのはこの集団！」（pp.76-77）によれば、図表「6 アニメミュージカル・ゲームミュージカル」に「テニスの王子様」「エア・ギア」<sup>1</sup>「美少女戦士セーラームーン」「サクラ大戦」が挙げられている。そして、図表下の説明文では「一方、異業種ミュージカルの中でも特異な発展を遂げたのがアニメミュージカル。原作ファンを中心に確かな地位を築き、再演を繰り返している作品も多々見られるなど、動員に成功している。」（アンダーラインは本稿の筆者による）と記している。

それから『アプローズ vol.1』（メディアボーイ、2011年8月25日）の「漫画アニメが原作 あこがれのヒーローが3Dに」（p.100）では、ミュージカルに限定せず、舞台化という広い枠で取り扱っており、「ガラスの仮面」「テニスの王子様」「ベルサイユのばら」「トーマの心臓」「火の鳥」「アトム」「おもいでぼろぼろ」「プライド」「ROCK MUSICAL BLEACH」「聖闘士星矢」の名が挙げられている。

このようにアニメミュージカルとは文字通り、アニメ作品を原作とするミュージカル作品を指すが、より正確にはアニメやコミック、そしてゲームを原作とする創作ミュージカルということができる。アニメとコミックは具体的

作品名を挙げるまでもなく、その分かち難い関係性は明白であり、今やゲームもその豊かなストーリー性を以て前二者に比肩するものと考えられ、それらの作品の多くが映画化、舞台化されて人気を博している。そして、その舞台化の波はセリフを主体にプロットを構成するいわゆる「ストレート・プレイ」の分野に留まらず、音楽やダンスに重きを置く「ミュージカル」の世界にも及び、多くの人気作品を生み出しており、特に後者においては、それ独自の音楽様式を擁する1つのカテゴリーの呼称としての「アニメミュージカル」を形成する勢いすら感じられる。

その意味において、本稿はアニメミュージカルの出現を現代日本の大衆音楽芸能における新しい潮流としてとらえ、そこに含まれる音楽、キャスティング、上演方式などに関する様々な特徴的要素を抽出し、現代日本の大衆音楽芸能が如何に変化しつつあるかを考察するための端緒となるべく書かれたものである。以下、一般にアニメミュージカルと目される諸作品の情報を収集、整理し、そこから創造的要素と思われる事象を抽出し、ミュージカルのジャンルにおいてだけでなく、音楽（特に J-Pop）、演劇（特に音楽性を重視する演目）といった大衆音楽芸能に広く影響を及ぼす要素を導き出すことを試みる。その際、原作、上演状況（初演、再演の時期、方式など）、キャスト（その略歴、特にアニメミュージカルへの出演歴を中心に）、スタッフ（制作、主催、作詞家、作曲家、振付師などを中心に）、メディアにおける報道、DVD・CDの発行状況など、多岐に渡る項目を設定し、それらの分析を通して読み取れる事象を個々の作品について示すこととする。

## I アニメミュージカル作品の概観

これまでの情報収集によって知り得たアニメミュージカルの諸作品を俯瞰すると、歴史の長さや、上演回数から言って一際目を引くのが『テニスの王子様』（略称『テニミュ』）と『BLEACH』（略称『ブリミュ』）である。そこで、以下、まずはその二作品について、そしてそのあとにその他の作品の基本情報を整理していく。

## 1 『テニスの王子様』

これはテニスの天才少年、越前リョーマ（中学一年生）が入学した中学（青春学園）のテニス部で他の部員たちとともに切磋琢磨し、全国大会出場を目指して勝ち進んでいく物語である。上演データはテニミュの HP (<http://tennimu.com/>) などをもとに以下のように整理できる。

『テニミュ』の上演状況 ※(12)～(16)は簡略データで示す。

1st シーズン

(1) ミュージカル『テニスの王子様』

東京芸術劇場中ホール（東京）2003 年 4 月 30 日～5 月 5 日

(2) ミュージカル『テニスの王子様』

日本青年館大ホール（東京）2003 年 8 月 7 日、8 日

サンケイホール（大阪）200 年 8 月 13 日～15 日

(3) ミュージカル『テニスの王子様』 Remarkable 1st Match 不動峰

ゆうぽうと簡易保険ホール（東京）2003 年 12 月 30 日～2004 年 1 月 1 日

メルパルクホール（大阪）2004 年 1 月 3 日～5 日

(4) ミュージカル『テニスの王子様』 More than Limit 聖ルドルフ学院

東京芸術劇場中ホール（東京）2004 年 7 月 29 日～8 月 8 日

新神戸オリエンタル劇場（神戸）2004 年 8 月 11 日～15 日

(5) ミュージカル『テニスの王子様』 in winter 2004-2005 side 不動峰 ~special match~

東京芸術劇場中ホール 2004 年 12 月 29 日～2005 年 1 月 2 日

(6) ミュージカル『テニスの王子様』 in winter 2004-2005 side 山吹 feat. 聖ルドルフ学院

大阪メルパルクホール 2005 年 1 月 8 日～10 日

東京メルパルクホール 2005 年 1 月 20 日～23 日

(7) ミュージカル『テニスの王子様』 The Imperial Match 氷帝学園

日本青年館大ホール（東京）2005 年 8 月 8 日～14 日

大阪メルパルクホール（大阪）2005 年 8 月 17 日～20 日

(8) ミュージカル『テニスの王子様』 The Imperial Match 氷帝学園 in winter 2005-2006

日本青年館大ホール（東京）2005 年 12 月 19 日～25 日

- 大阪メルパルクホール（大阪）2005 年 12 月 28 日～2006 年 1 月 2 日
- (9) ミュージカル『テニスの王子様』Advancement Match 六角 feat. 氷帝学園  
日本青年館大ホール（東京）2006 年 8 月 3 日～13 日  
大阪メルパルクホール（大阪）2006 年 8 月 16 日～19 日  
名鉄ホール（名古屋）2006 年 8 月 24 日～27 日
- (10) ミュージカル『テニスの王子様』Absolute King 立海 feat. 六角 ~First Service  
日本青年館大ホール（東京）2006 年 12 月 13 日～25 日  
大阪メルパルクホール（大阪）2006 年 12 月 28 日～2007 年 1 月 8 日  
香川県県民ホール アクトホール（香川）2007 年 1 月 11 日～14 日  
サンシャイン劇場（東京）2007 年 1 月 18 日～1 月 21 日  
名古屋市民会館中ホール（名古屋）2007 年 1 月 25 日～27 日
- (11) ミュージカル『テニスの王子様』Absolute King 立海 feat. 六角 ~Second Service  
日本青年館大ホール（東京）2007 年 8 月 2 日～15 日  
大阪メルパルクホール（大阪）2007 年 8 月 18 日～25 日  
香川県県民ホール グランドホール（香川）2007 年 8 月 28 日～29 日  
福岡市市民会館大ホール（福岡）2007 年 9 月 1 日～2 日  
岐阜市民会館大ホール（岐阜）2007 年 9 月 7 日～9 日
- (12) ミュージカル『テニスの王子様』The Progressive Match 比嘉 feat. 立海  
2007 年 12 月～2008 年 2 月
- (13) ミュージカル『テニスの王子様』The Imperial Presence 氷帝 feat. 比嘉  
2008 年 7 月～11 月
- (14) ミュージカル『テニスの王子様』The Treasure Match 四天宝寺 feat. 氷帝  
2008 年 12 月～2009 年 3 月
- (15) ミュージカル『テニスの王子様』The Final Match 立海 First feat. 四天宝寺  
2009 年 7 月～10 月
- (16) ミュージカル『テニスの王子様』The Final Match 立海 Second feat. The Rivals  
2009 年 12 月～2010 年 3 月
- ※その他、海外公演として台湾、韓国公演が含まれている。

2nd シーズン

(1) ミュージカル『テニスの王子様』 青学 VS. 不動峰

JCB ホール（東京） 2011 年 1 月 5 日～ 16 日

大阪メルパルクホール（大阪） 2011 年 1 月 19 日～ 23 日

日本青年館大ホール（東京） 2011 年 1 月 26 日～ 2 月 11 日

(2) ミュージカル『テニスの王子様』 青学 VS. 氷帝

TOKYO DOME CITY HALL（東京） 2011 年 7 月 15 日～ 31 日

大阪メルパルクホール（大阪） 2011 年 8 月 10 日～ 21 日

中京大学文化市民会館ブルニエホール（名古屋） 2011 年 9 月 8 日～ 11 日

TOKYO DOME CITY HALL（東京） 2011 年 9 月 22 日～ 24 日

(3) ミュージカル『テニスの王子様』 青学 VS. 六角

日本青年館大ホール（東京） 2011 年 12 月 17 日～ 25 日

大阪メルパルクホール（大阪） 2011 年 12 月 23 日～ 2012 年 1 月 9 日

名鉄ホール（名古屋） 2012 年 1 月 19 日～ 22 日

キャナルシティ劇場（福岡） 2012 年 2 月 3 日～ 5 日

TOKYO DOME CITY HALL（東京） 2012 年 2 月 9 日～ 12 日

一見して分かるように、『テニミュ』は主役のリョーマが所属する青春学園テニス部と他校との対戦試合によって様々なストーリーによる公演を展開して来た。そのキャストは主役の越前リョーマをはじめ青春学園、さらには対戦校のメンバーも随時入れ替えが行われることを原則としており、それもオーディションによって選定されることになっている。つまり新陳代謝が不断に行われる訳で、それはダンス、音楽など各方面についても当てはまることを思えば、キャスト、スタッフにかかる責任、負担の大きさは想像に難くない。その他、「ドリライ」と略称されるレビュー風のライブ「DREAM LIVE」も行われるなど上演方式、宣伝手法には目を見張るものがある。その上演データは下記の通りである。

テニミュ Dream Live ※詳細な日程は省略。

1st シーズン

(1) ミュージカル『テニスの王子様』 コンサート Dream Live 1st 2004 年 6 月

- (2) ミュージカル『テニスの王子様』コンサート Dream Live 2nd 2005 年 5 月
  - (3) ミュージカル『テニスの王子様』コンサート Dream Live 3rd 2006 年 3 月
  - (4) ミュージカル『テニスの王子様』コンサート Dream Live 4th 2007 年 3 月～ 5 月
  - (5) ミュージカル『テニスの王子様』コンサート Dream Live 5th 2008 年 5 月
  - (6) ミュージカル『テニスの王子様』コンサート Dream Live 6th 2009 年 6 月
  - (7) ミュージカル『テニスの王子様』コンサート Dream Live 7th 2010 年 5 月
- 2nd シーズンは記載省略

そのドリライについては、『レプリーク Bis vol.13』（2008 年 12 月 阪急コミュニケーションズ）の特集「漫画×舞台」（pp.10-13）の紹介記事に次のように簡潔に記されている。「ドリームライブ、通称ドリライ。それはテニミュの出演者たちが、それぞれのキャラクターを演じながら、歌い、踊る、熱狂ライブだ。今年、5 月で 5 回目となった人気のステージ。会場中を包む熱気で、本公演とはひと味違う一体感を味わうことができる。」とあり、その映像を見ると、宝塚のレビューに似ているが、出演者と観客とが一体感を味わうという意味では、まさに J-Pop のライブそのものであると言えるだろう。

それから、大千秋楽の際に指定の全国の映画館で実施されるライブ・ビューイングの普及については、拙稿「J-Pop および日本の舞台・映像芸術の若手エンタテイナーの活動に見るクロスオーバーの諸相」（『ミクストミューズ第六号 2011』所収）においてすでに指摘しているので、ここでは省略する。

テニミュのキャスティングの特色と言えば、まず若手男優のみで構成されている点のほかに、もう 1 つ上記に言及したようなキャストの随時変動による新陳代謝の良さが挙げられる。スター主義ではないところがポイントで、主役の越前リョーマをはじめ各キャラクターの俳優の変遷はテニミュの HP に記録されている通りであるが、それらのキャストには、若手といえども舞台で主役を張れるレベルの俳優が多数含まれ、実際、彼らはテニミュ以外のアニメミュージカルや音楽を重視する舞台作品に出演しており、中には音楽活動に関わっている俳優も少なくない<sup>2</sup>。そこで、本稿においては、テニミュを含むアニメミュージカルの複数作品に出演あるいはスタッフとして関わった人物名を太字で表記し、アンダーラインを施し、それによってどのような人材がアニメミュージカ

ルに関わっているか把握するための一助とした。

アニメミュージカルの諸作品の中でも、これほど大人数かつ多彩で変化に富んだキャスティングを実行しているのは、恐らくこの「テニミュ」以外にないといっても過言ではなく、その点はメディアにおいても明確に指摘されている。例えば、前掲の『レプリーク Bis vol.13』の特集「漫画×舞台」(pp.10-13)における「若手俳優の登竜門となった、ザッツエンターテイメント ミュージカル『テニスの王子様』」には出演者の新井裕介、馬場良馬、高橋龍輝、張乙紘のインタビュー記事、久保田悠来、秋山真太郎のインタビュー記事のほかにプロデューサーの松田誠のインタビュー記事も収められ、松田はその成功の理由として「誰からも支持される素晴らしい原作。演出の上島雪夫、作家の三ツ矢雄二、音楽の佐橋俊彦という舞台のトッププロ3人の成せる技」と述べている。それから、pp.14-15の「ひとめでわかる! テニミュ!!」にはその歴史とともに新しさ、特色、魅力を次のように簡潔にまとめている。

「テニスウェアを身につけた男の子たちがラケットを抱え歌い、踊る。そんなミュージカルは今までなかった。なかったからこそ、プロのスタッフ達が想像力をフル稼働し、知恵を寄せ合い生み出したのが、“テニミュ”という新しい演劇ジャンルだった。」(アンダーラインは本稿の筆者による)

「テニミュ人気が最初に爆発した瞬間は、初代青学(せいがく)メンバーの卒業公演。原作ファンも思わず唸るほどキャラクターを徹底的に研究して舞台に立ってきた彼らのステージのフィナーレの日、急遽決定した別会場で同時のスクリーン上映も含め、チケットを手に出来なかったファンが真冬の劇場前の広場を大挙埋め尽くしたのだ(そこにはかつて空席の目立つ初演時、PRのため初代青学(せいがく)メンバーらが通行人にチラシを配ろうとした同じ場所でもある)。」<sup>3</sup>

そして、2008年の状況をこう締めくくっている。「初演から5年。JR山手線の車内モニターにCMが流れ、初のアジア公演も実現、青学(せいがく)メンバーも5代目を数える今、“熱”はさらなる“熱”を呼び続け、テニミュのステージは留まることなく拡大し続けている。」

また、登竜門と記している具体的状況の一端は、p.16に「舞台の世界で活躍するテニミュの先輩たち!」として、加藤和樹、城田優、相葉弘樹、中河内雅貴、伊礼彼方の5人が紹介されている。実際、近年、彼らは本業の舞台（ストレートプレイ）をはじめ、映画、ミュージカル、音楽活動と多彩な活躍を見せており、中でも、ミュージカルへの進出と音楽活動は注目に値するものがあるが、それについては後日論じる機会を設けたい。

上演状況から容易に想像されるように、そのキャストは相当な数に登るため、最新公演のキャスト名を挙げるに留める。そして、キャスト数と同様、テニミュのスタッフも大人数に及んでいるが、主要スタッフに大きな変動は見られないので、最新公演のデータから主要部門のみを抜粋して以下に掲げる。

#### 青学

越前リョーマ：小越勇輝 手塚国光：和田卓磨 大石秀一郎：平牧仁 不二周助：三津谷亮  
菊丸英二：小関裕太 乾貞治：輝馬 河村隆：鶴見知大 桃城武：上鶴徹 海棠薫：池岡亮介  
堀尾聡史：榊井賢斗 加藤勝郎：大平峻也 水野カツオ：大野瑞生

#### 六角

葵剣太郎：吉田大輝 佐伯虎次郎：内海大輔 黒羽春風：本川翔太 天根ヒカル：木村敦  
樹希彦：橋本真一 木更津亮：廣瀬大介

#### 氷帝

跡部景吾：青木玄德 忍足侑士：菊池卓也 向日岳人：志尊淳 穴戸亮：桑野晃輔  
芥川慈郎：赤澤燈 滝萩之介：西島颯人 樺地崇弘：古家広之 鳳長太郎：白州迅  
日吉若：伊勢大貴

原作：許斐剛『テニスの王子様』（集英社ジャンプ・コミックス刊）

オリジナル演出／脚色：上島雪夫

音楽：佐橋俊彦 作詞：三ツ矢雄二 振付：本山新之助／上島雪夫

エグゼクティブプロデューサー：松田誠（ネルケプランニング）、松本慶明（マーベラス AQL）、

茨木政彦（集英社）、篠田芳彦（日本アドシステム）、中尾哲郎（テレビ東京）

主催：テニミュ製作委員会（ネルケプランニング、マーベラス AQL、日本アドシステム、テレビ東京）



テニミュの音楽上の特徴として注目すべき点は多々あるが、その1つとして使用楽曲の目まぐるしい変化がある。ストーリーが異なれば、使用楽曲もほとんど入れ替えられている。そして、このように数多くの多彩な楽曲の中から、リプライズ、すなわち劇中で繰り返し歌われる印象深い楽曲をはじめとして、多くがスタンダードレパートリーとして定着している<sup>4</sup>。それから、カーテンコール後に「アンコール」と称される1-2曲による短時間のライブが実施されるのもテニミュの音楽的特徴の1つとして挙げることができるだろう。それは劇のストーリーを離れて観賞に堪える独立した楽曲として位置づけられており、中でも〈On my way〉〈F.G.K.S.〉については単独でDVDが出ているほど人気を博している<sup>5</sup>。さらに、最新のアンコール曲「Jumping up! High touch!」はテニミュ史上初のシングルCDがリリースされ、2011年9月28日オリコンシングル／ウィークリーランキング第7位、デイリーランキング(9月28日付)第3位を獲得したことは、音楽業界特にJ-Popへの影響が注目される。それに関連して、映像・音源ソフト(DVD・CD)はかなりの数に及ぶものが発行されており、詳細はHPを参照されたい。

## 2 ロックミュージカル『BLEACH』

本作品は、オレンジ色の髪を持つ霊感の強い高校生、主人公の黒崎一護が、ある死神(女性)と関わりを持ったことがキッカケで、親友たちとともに霊界へと旅をし、様々な事件に巻き込まれていくという内容である。その上演状況は下記の通り。

### (1) ロックミュージカル BLEACH

東京公演 全労済ホール スペース・ゼロ 2005年8月17日～28日

### (2) ロックミュージカル BLEACH 再炎

大阪公演 大阪メルパルクホール 2006年1月5日～8日

東京公演 日本青年館大ホール 2006年1月14日～19日

### (3) ROCK MUSICAL BLEACH The Dark of The Bleeding Moon

大阪公演 大阪メルパルクホール 2006年8月10日～13日

東京公演 日本青年館大ホール 2006年8月16日～21日

- (4) ROCK MUSICAL BLEACH the LIVE “ 卍解 SHOW code:001”  
東京公演 青山劇場 2007 年 1 月 10 日～ 1 月 14 日
- (5) ROCK MUSICAL BLEACH No Clouds in the Blue Heavens  
東京公演 日本青年館大ホール 2007 年 3 月 21 日～ 27 日  
兵庫公演 兵庫県立芸術文化センター 2007 年 4 月 3 日～ 8 日
- (6) ROCK MUSICAL BLEACH DX 東京公演 新宿コマ劇場  
a. ROCK MUSICAL BLEACH THE ALL 2008 年 3 月 24 日～ 26 日、30 日  
b. the LIVE “ 卍解 SHOW code:002” 2008 年 3 月 27 日～ 29 日、31 日
- (7) ROCK MUSICAL BLEACH DX the Film Fes- 始動!-  
東京公演 九段会館 2009 年 5 月 16 日～ 17 日  
大阪公演 クレオ大阪中央 2009 年 8 月 15 日
- (8) ROCK MUSICAL BLEACH the LIVE “ 卍解 SHOW code:003”  
福岡公演 ももち文化センター大ホール 2010 年 1 月 15 日～ 17 日  
大阪公演 イオン化粧品シアター BRAVA! 2010 年 1 月 20 日～ 25 日  
東京公演 日本青年館大ホール 2010 年 1 月 29 日～ 2 月 8 日
- (9) BLEACH 連載 10 周年記念公演 ROCK MUSICAL BLEACH  
シアター 1010 公演：シアター 1010・・・2011 年 7 月 1 日～ 7 月 3 日  
名古屋公演：愛知県芸術劇場大ホール・・・2011 年 7 月 9 日～ 7 月 10 日  
大阪公演：森ノ宮ピロティホール・・・2011 年 7 月 21 日～ 7 月 24 日  
新潟公演：新潟県民会館・・・2011 年 7 月 27 日  
石川公演：石川・本多の森ホール・・・2011 年 7 月 30 日～ 7 月 31 日  
東京公演：シアタークリエ・・・2011 年 8 月 4 日～ 8 月 30 日

上記の (1)、すなわち初演のキャストは下記の通りで、本作品はテニミュとは対照的に主役、共演者ともにほぼ固定したキャスティングで展開してきた。脚本の異同によって、数名のキャラクターが付加されたこともあったが、不動のメンバーともいべき布陣は下記の通りである（役名：俳優名の順に記す、以下同様）。太字アンダーラインの俳優 3 名はテニミュの初期に出演していた。

黒崎一護：伊阪達也 朽木ルキア：佐藤美貴 阿散井恋次：森山栄治 日番谷冬獅郎：永山たかし

藍染惣右介：大口兼悟 浦原喜助：伊藤陽佑 市丸ギン：土屋裕一 茶渡泰虎：吉田直史  
朽木白哉：林修司 雛森桃：齋藤来未子 井上織姫：吉井怜

(1) のスタッフは次に記す通りで、(2) も基本的に (1) と同様であるが、(3)(5)(6) では脚本・演出と殺陣がそれぞれ、堤泰之（プラチナ・ペーパーズ）、清水大輔に変わっている（ライブショーである (4)、(6) の b、(7)、(8) の出演者、スタッフについては資料未入手により詳細不明）。

原作：久保帯人（集英社『少年ジャンプ』連載） 演出：平光琢也 脚本：奥村直義  
音楽：玉麻尚一

振付：SATOMI THOMA 殺陣：野添義弘 制作：ネルケプランニング

主催：BLEACH イベント委員会、ぴえろ、集英社、テレビ東京、電通

そして、上記 (9) の 2011 年 8 月の新生 BLEACH とも言うべき公演では、スタッフおよびキャストिंगに大幅に入れ替えが行われ、その状況を同公演のプログラム冊子の冒頭で脚本・演出のきだつよしが次のように述べている。

（前略）新生『ROCK MUSICAL BLEACH』の作・演出を託された僕が作品を作るにあたってかかげた目標、それは…「BLEACH であって BLEACH でない。けど…ものすんごく BLEACH っぽい 今回は原作にはない舞台用のオリジナルストーリーですが、随所に原作へのオマージュとリスペクトをふんだんに盛り込み、日本を代表する大人気原作をお預かりしている責任をしっかりと背負いながら、舞台作品としてどうアレンジするか…演劇界を代表して自分の持てる力を全て注ぎこんで作ったつもりです。（以下略）

脚本・演出：きだつよし 音楽：かみむら周平 作詞：うえのけいこ

殺陣：清水大輔 振付：原田薫

制作：ネルケプランニング、東宝 主催：公演ごとに異なる

キャスト

黒崎一護：法月康平 朽木ルキア：佐藤美貴 阿散井恋次：鯨井康介 日髿谷冬獅郎：木戸邑也

朽木白哉：太田基裕 京楽春水：石坂勇 浮竹十四郎：西島千博

遙華（舞台オリジナルキャラクター）：彩乃かなみ

射真（舞台オリジナルキャラクター）：新納慎也

上記のように、同公演では朽木ルキアの佐藤美貴のみが継続で、主役の俳優が交替し、演出も音楽も総入れ替えとなっており、確かにリニューアルの感が強い。その音楽上の特徴としては、新生 BLEACH 以外では、ロックミュージカルという冠タイトルがそれを象徴しているように見える。実際、毎回の公演では舞台の上手に生バンド（ギター、ベース、ドラム、キーボードなど）が配置され、歌やBGMの音楽の一部にいわゆるロック風のサウンドを感じることができる。そして、下記データ（DVDより収録楽曲を書き出したもの）のアンダーラインを施した箇所のように、劇中でライブ、ショータイム、そして独立した公演としてのライブも行われていることが分かり、その点はテニミュと共通するものがある。

《ロックミュージカル『BLEACH』》RMBD-501

2005年8月25日 全労済ホール / スペース・ゼロ

第一幕 M01〈OVERTURE-BLEACH〉M02〈必ず見つけ出す〉M03〈まごころ〉M04〈大切なこと〉

M05〈浦原商店～目覚めた力〉M06〈大虚〉M07〈小さなやすらぎ〉M08〈蛇尾丸〉

M09〈必ず見つけ出す～終わらない戦い〉

第二幕 M10〈Death Song〉M11〈君が見えない〉M12〈送魂歌〉M13〈愛遠く〉M14〈Explosion〉

M15〈ハレルヤ! グッバイ!～Death Song リプライズ〉M16〈流魂街の記憶〉M17〈真

実の行方〉

M18〈うごめく意志〉M19〈掟そして迷い〉M20〈BLEACH リプライズ〉M21〈藍染の死〉

M22〈対決〉M23〈戦いに必要なもの〉M24〈流魂街の記憶リプライズ〉M25〈BLEACH

リプライズ〉M26〈変わらない気持ち〉

チャプター 08 浦原フリートークコーナー チャプター 09 護廷十三隊ライブ

《ロックミュージカル『BLEACH』再炎》MRBD-0602 2006年1月15日 日本青年館大ホール

第一幕 M.01〈OVERTURE-BLEACH〉M.02〈あいつを…〉M.03〈あいつを…～大切なこと〉M.04.〈浦原商店〉

M.05 〈小さな安らぎ〉 M.06 〈聞こえるか〉 M.07 〈もう1つの地上〉 M.08 〈何…〉

第二幕 M.09 〈流魂街の記憶〉 M.10 〈うごめく意志〉 M.11 〈真実の行方〉 M.12 〈眠れぬ夜〉

M.13 〈掟そして迷い〉 M.14 〈BLEACH〉 M.15 〈藍染の死〉 M.16 〈戦いに必要なもの〉

M.17 〈流魂街の記憶〉 M.18 〈終わらない戦い〉 M.19 〈カーテンコール (バウ)〉 M.20 〈DEATH

SONG〉 M.21 〈変わらない気持ち〉 M.22 〈Song for you〉 M.23 〈Silent wish〉 M.24 〈ハ

レルヤ・グッバイ〉

M.20～M.24 はライブ

《ROCK MUSICAL BLEACH The Dark of The Bleeding Moon》RMBD-0604

2006年8月18日 日本青年館大ホール

M.01 〈The Dark of The Bleeding Moon〉 M.02 〈地獄蝶のうた〉 M.03 〈狭い空〉 M.04 〈山田花太郎です〉

M.05 〈でめえと殺し合いに来た〉 M.06 〈月よ、教えてくれ〉 M.07 〈ニャアニャとプニユプニユ祭り〉

M.08 〈これが黒崎一護だぜ!!〉 M.09 〈The Dark of The Bleeding Moon ～それぞれの戦い～〉

M.10 〈藍染の手紙〉 M.11 〈海燕の思い出〉 M.12 〈二度とあの手を離さない〉 M.13 〈崩された覚悟〉

M.14 〈双殭の解放〉 M.15 〈The Dark of The Bleeding Moon ～エンディング～〉

M.16 〈もう1つの地上 2006 夏 ver. ～俺たちだって歌いたい～〉 M.17 〈手をつなごう〉

M.18 〈べんがら格子〉 M.19 〈Coin〉 M.20 〈DANCE NUMBER〉 M.21 〈ザッツ漢〉

M.16～M.21 はショートタイム

《ROCK MUSICAL BLEACH No Clouds in the Blue Heavens》RMBD-0708

2007年3月25日 日本青年館大ホール

1 プロローグー冷たい雨 M.01 降り止まぬ雨 M.02 揺れる尸魂界

2 正義を懸けた戦いー東仙 vs 更木 M.03 光を持たぬ私の世界～閻魔蟋蟀～

3 双殭の解放 M.04 揺れる尸魂界～危険分子～

4 廻りだした歯車 M.05 廻りだした歯車～見えない力～

5 過去との戦いー碎蜂 vs 夜一 M.06 裏切り

6 揺れる尸魂界 M.07 ひとりじゃない

7 掟との戦い―一護 vs 白哉 M.08 砕かれた刃  
8 卯の花烈 M.09 おやすみなさい  
9 中央四六室 10 同じ思いでいると信じて… M.10 冬花火  
11 藍染との再会 M.11 これは幻じゃない M.12 揺れる尸魂界～裏切り者～  
12 ルキアのもとへ M.13 降り止まぬ雨～絶望へのプロローグ～  
13 真の目的 M.14 俺は黒崎一護になる  
14 雨上がりの空 M.15 護るべき者のために M.16 No Clouds in the Blue Heavens  
15 エンディング  
16 SHOW TIME M.17 SOUL'S SHOUT M.18 隊員って… M.19 もう1つの地上～2007ver. 春  
絢爛～ M.20 CATHARSIS OF ETERNITY M.21 強さと笑顔を束ねたら M.22 the other side of a l  
imit

本作品も映像・音源ソフト（DVD・CD）が多数発行されており、具体的状況は HP <http://pierrot.jp/title/bleach/musical/> で知ることができる。これ以降の諸作品については作品名のアイウエオ順に記述する。

### 3 『エア・ギア』

エア・トレックという特殊な空飛ぶシューズを履いた少年たちの物語。チーム小烏丸という暴走族チームのリーダー、イッキとその仲間たちが悪と戦う様子を華麗なアクションと歌やダンスで表現するもの。上演状況、下記の(1)～(3)のキャスト、スタッフは下記の通りである。(3)ではイッキ(南樹)役を上山竜司、ロミオ役を米原幸佑、ハムレット役を柳澤貴彦がそれぞれ務め、(4)では鎌苅健太がイッキ役に復帰している。

- (1)2007 年 1 月 7 日～ 14 日 全労済ホール／スペース・ゼロ (全 11 公演)、東京
- (2)2007 年 1 月 19 日～ 21 日 イオン化粧品シアター BRAVA! (全 5 公演)、大阪
- (3)2007 年 5 月 3 日～ 8 日 日本青年館大ホール
- (4)2010 年 4 月 9 日～ 4 月 16 日 日本青年館大ホール

イッキ (南樹) : 鎌苅健太、カズ (美鞍葛馬) : KENN、オニギリ : 加治将樹、ブッチャ (御仏一茶) :

勝矢

アキト・アギト：永嶋柊吾、ロミオ：上山竜司、マクベス：永田彬、パック：宮下雄也、

ハムレット：米原幸佑、ジュリエット：松本寛也ほか

原作：大暮維人（講談社「週刊少年マガジン」連載） 演出：茅野イサム

脚本：三ツ矢雄二、奥村直義、三井秀樹

作詞：三ツ矢雄二 音楽：佐橋俊彦、振付：麻咲梨乃

音楽上の特徴的事項としては、前記二作品と異なり、カーテンコール後のライブなどは行われていないが、リプライズされる曲（下記のアンダーラインを施したもの）があり、さらに異なる楽曲を掛け合わせるようにしている例（M#7）も見られるなど、ミュージカルとして一歩踏み込んだ構成上の工夫が伺える。

《エア・ギア》MJBD-70553 2007年1月13日（全労済ホール / スペースゼロ）

第一幕

M#1 〈空へ〉 M#2 〈小鳥丸見参!〉 M#3 〈月光の輪舞曲（ロンド）〉 M#4 〈YO！YO！しゃべってYO！〉

M#5 〈サマー・ナイツ・ドリーム〉 M#6 〈月光の輪舞曲Ⅱ～小鳥丸見参!Ⅱ〉

第二幕

M#7 〈いつか見た空〉 M#8 〈空へⅡ〉 M#9 〈BATTLE〉 M#10 〈決着〉 M#11 〈空へⅢ〉 M#12 〈小鳥丸見参!〉

《エア・ギア》MJBD-70558 2007年5月4日（日本青年館大ホール）

第一幕

M#1 〈小鳥丸見参!〉 M#2 〈空へ〉 M#3 〈YOU'RE UNDER ARREST(Act1)〉 M#4 〈月光の輪舞曲（ロンド）〉

M#5 〈YO！YO！しゃべってYO！〉 M#6 〈サマー・ナイツ・ドリーム〉 M#7 〈月光の輪舞曲Ⅱ～小鳥丸見参!Ⅱ〉

第二幕

M#8 <YOU'RE UNDER ARREST(Act2)> M#9 <いつか見た空> M#10 <空へⅡ> M#11 <BATTLE>  
M#12 <決着> M#13 <空へⅢ> M#14 <小島丸見参!>

本作品の音楽に関しては、『ミュージカル「エア・ギア」完全ガイド』（講談社、2007年）の「対談三ツ矢雄二×佐橋俊彦」に詳しく述べられており、そこにはアニメミュージカル全体に関する示唆に富んだ言葉が散見していて興味深い。本作品は全公演の映像・音源ソフト（DVD・CD）が発行されている。詳しくはHP → [http://www.maql.co.jp/special/airgear\\_musical/info.html](http://www.maql.co.jp/special/airgear_musical/info.html) を参照。

#### 4 『音楽舞台会黒執事その執事、友好』

ミュージカルと銘打ってはいないが、続くミュージカル『黒執事 千の魂と墜ちた死神』のプレステージとして位置づけられ、その内容構成から言って、レビューというより実質的にミュージカルと見なすことに問題はないだろう。上演状況、主要キャスト、スタッフは下記の通り。

東京公演 2009年10月10日 ゆうぽうと簡易保険ホール 13:00 および 18:00 開演

大阪公演 2009年10月31日 ウェルシティ大阪厚生年金会館芸術ホール 13:00 および 18:00  
開演

名古屋公演 11月1日 中京大学文化市民会館 プルニエホール 13:00 および 18:00 開演

セバスチャン・ミカエリス…松下優也 シエル・ファントムハイブ…阪本奨悟

バルドロイ…小山剛志 フィニアン…南翔太 メイリン…猪狩敦子

グレル・サトクリフ…植原卓也 劉…龍弥 葬儀屋…和泉宗兵 アパーライン…伊勢直弘

ユウキ…青柳塁斗 カイ…押野大地 キリト…宮下雄也 (RUN&GUN)

原作：枢やな（掲載 月刊「Gファンタジー」スクウェア・エニックス刊）

脚本・演出：浅沼晋太郎 (bpm)

音楽：和田俊輔（デス電所） エグゼクティブプロデューサー：海野晋（エンタテインメントプラス）

制作：アトリエダンカン 主催：舞台「黒執事」製作委員会



劇中歌はすべて作曲：和田俊輔、作詞：浅沼晋太郎によるもので、DVD 付録の解説書の表記に従って記すと次のようになる。

- (1) セバスチャン 歌唱曲 「Yes, My Lord.」
- (2) バルド・フィニ・メイリン 歌唱曲 「騒がしき哉、三人！」
- (3) グレル VS セバスチャン 歌唱曲 「RED or BLACK?」
- (4) 劉 歌唱曲 「世上没有能治後悔的藥」(筆者注 解説書では中国簡体字で表記)  
中間部の歌詞が中国語
- (5) 葬儀屋 歌唱曲 「How brings you unhappiness!」
- (6) シエル・ユウキ 歌唱曲 「窓に憶う」
- (7) セバスチャン・シエル 歌唱曲 「彼方へ」

## 5 ネオロマンズステージ ステラ・ミュージカル『金色のコルダ』

冠タイトルからも推測されるように、本作品は他のアニメミュージカルとは少し趣を異にしている。物語の舞台は音楽高校であることから、コミック『のだめカンタービレ』に似ており、主役をはじめ出演者に女性が占める割合が高いのも特徴的である。キャスト、スタッフなどは下記の通り。

[キャスト (夏公演)] 日時 2010 年 7 月 16 日～25 日 ル テアトル銀座 by PARCO

日野香穂子 (Wキャスト)：森 咲樹・岡本あずさ 月森 蓮：三上 俊 土浦梁太郎：高橋優太

志水桂一：小関裕太 火原和樹：吉野晃一 柚木梓馬：川村聖斗 冬海笙子：笹丘明里

天羽菜美：三好絵梨香 金澤紘人：安倍康律 王崎信武：吉原シュート

リリ (Wキャスト)：堀内まり菜・山内亜美 緑川 慧：清水一希 松山千原：宮之脇佳織

竹田鉄代：吉野由利子 梅沢富美子：土屋史子 庄司 恵：城戸愛莉 樋賀 昇 (副教頭)：舟見和利

間山流次：渡 航輝 荻野小百合 (教頭)：斉藤レイ

[キャスト (春公演)] 日時 2010 年 3 月 19 日～24 日 天王洲 銀河劇場

日野香穂子 (Wキャスト)：森 咲樹・岡本あずさ 月森 蓮：三上 俊 土浦梁太郎：高橋優太

志水桂一：小関裕太 火原和樹：吉野晃一 柚木梓馬：川村聖斗 冬海笙子：笹丘明里

天羽菜美：三好絵梨香 金澤紘人：進藤 学 王崎信武：吉原シュート

リリ (W キャスト)：堀内まり菜・山内亜美 東海林 遼・清水一希・宮之脇佳織・吉野由利子・土屋史子・  
城戸愛莉／舟見和利・斉藤レイ

スタッフ、音楽上の特徴的事項、映像・音源ソフト (DVD・CD) の発行状況については HP を参照 <http://www.gamecity.ne.jp/media/event/2010/musical/>。

## 6 『黒執事 千の魂と墜ちた死神』

4 の続編のような形で、こちらはミュージカルと銘打って上演された。詳しくは、拙著「J-Pop をめぐるクロスオーバー現象とその周辺の事象についてークラシック、伝統邦楽、ミュージカルとの関係を中心にー」(『ミクストミュージック増刊号』所収) を参照。

## 7 スーパーミュージカル『聖闘士星矢』

1991 年にミュージカル化されているが、それと下記の公演とは出演者、スタッフとも異なっている。上演状況、キャスト、スタッフは次の通り。

(1) 2011 年 7 月 28 日～7 月 31 日 全労済ホール／スペース・ゼロ、東京

(2) 2011 年 12 月 22 日～12 月 25 日 天王洲 銀河劇場

ペガサス星矢：鎌苅健太、城戸沙織：富田麻帆、ドラゴン紫龍：植野堀まこと、  
キグナス氷河：阿部直生、アンドロメダ瞬：篠谷聖、フェニックス一輝：広瀬友祐、  
オリオン座のジャガー：松崎裕、南十字星のクライスト：藤原祐規、  
琴座のオルフェウス：齋藤ヤスカ、矢座の魔矢：大河元気

原作：車田正美 (集英社刊)、演出：茅野イサム、脚本：三井秀樹、音楽：佐橋俊彦、

振付：本山新之助

主催：スーパーミュージカル「聖闘士星矢」制作委員会

そして、プログラム冊子中の出演者の紹介文にはミュージカル、演劇出演歴が書かれているので、以下、それを引用する。

**鎌苅健太**：ミュージカル『テニスの王子様』 穴戸亮役（氷帝学園）、ミュージカル『エア・ギア』 主演・イッキ役、舞台『タンブリング vol.2』 龍木将斗役。

**富田麻帆**：舞台『アニー』、『ギャラクシー・エンジェル』、『レ・ミゼラブル』

**湯澤幸一郎**：舞台『マグダラなマリア』、ニコニコミュージカル『クリスマス・キャロル』

**植野堀まこと**：ミュージカル『テニスの王子様』 一氏ユウジ役（四天王寺）

**阿部直生**：ニコニコミュージカル『DEAR BOYS-Double Revenge-』 高階トウヤ役、舞台『劇団 Vitamin X』

**篠谷聖**：舞台『SAMURAI7』、『ジッパー!』、ミュージカル『テニスの王子様』 甲斐裕次郎役（比嘉）

**広瀬友祐**：舞台『ガーネット・オペラ』、『花咲ける青少年』、『ロミオ&ジュリエット』

**松崎裕**：舞台『ROCK ミュージカルピクスパイダー』、ミュージカル『テニスの王子様』 田仁志慧役（比嘉）

**藤原祐規**：舞台『マグダラなマリア』 シリーズクリッパラ役、ニコニコミュージカル『クリスマス・キャロル』

ロパート役

**齋藤ヤスカ**：ミュージカル『テニスの王子様』 平古場凛役（比嘉）、舞台『abc ☆赤坂ボーイズキャバレー』

**大河元氣**：ミュージカル『テニスの王子様』 切原赤也（立海）、舞台『辻よしの祭（さい）!!』

**林野健志**：ミュージカル『テニスの王子様』 知念寛役（比嘉）

また同プログラム冊子には、制作意図が次のように記されている。「ミュージカル『聖闘士星矢』がすべての始まりだった。ここから僕の「アニミュ」が始まった。この作品に出会わなかったら、僕のそれからすべてのミュージカルはなかった。」（株式会社ドワンゴ執行役員兼エグゼクティブプロデューサーの片岡義朗）。そして、演出の茅野オサムは挨拶文で「（前略）原作のスケールに対抗するにはオペラのような、音楽と物語の完全なる融合が必要だろうという直感がありました。」と述べている。その他、本作は劇場での公演のほか、ニコニコ動画を通じて舞台の生中継が行われた点でも注目され、その様子は

DVDの特典ボーナスディスクに収録されている。HPは<http://www.musical-seiya.com/>。

## 8 『DEAR BOYS』

バスケットボールに情熱を傾ける高校生たちの姿を描いたもので「ディアミュ」とも言われる。初演、再演時はニコニコミュージカル（後述）の傘下ではなかった。上演状況、キャスト、スタッフは下記の通りで、(1)は初演、(2)は続編。キャスト、スタッフは(2)のもの。

(1) 2007年12月20日～29日 全労済ホール／スペース・ゼロ

(2) 2008年7月25日～8月3日 全労済ホール／スペース・ゼロ

瑞穂高校

哀川和彦：池田竜治、藤原拓弥：鶴見知大、三浦蘭丸：南圭介、石井努：石橋脩平、

土橋健二：安岡新八

本牧東高校

保科唯人：岡田亮輔、藤沢守：兼崎健太郎、薬師丸元：渡部結土、角松聡：小島裕

瑞穂高校（三年生）

五十嵐修：鯨井康介、佐伯満雄：六本木康弘

マネージャー・先生

杏崎沙斗未：寺岡裕香、飯嶋優作：湯澤幸一郎

原作：八神ひろき（講談社「月刊少年マガジン」連載）

演出：宇治川まさなり

脚本：九堂はるな／三井秀樹

作詞：九堂はるな、三井秀樹、宇治川まさなり

音楽：坂部剛

プロデューサー：中山春喜、松田誠、片岡義朗

主催：マーベラスエンターテイメント／ネルケプランニング

音楽上の特徴的事項については、関連情報およびその吟味が十分でない  
で、詳しいことは他日に期するしかないが、DVD の解説書から挿入歌と歌唱  
者の役柄を写すと以下ようになる。映像・音源ソフト（DVD・CD）が多く  
発行されており、ニコニコミュージカルとして上演以降の HP は <http://info.nicovideo.jp/nicomu/dearboys/> である。

ミュージカル DEAR BOYS VS.EAST HONMOKU MJB D-70740 2008 年 7 月 31 日公演を収録

M1 「Let's go DEAR BOYS」 M2 「本牧 RAP」 M3 「カッコ悪いオレ」 M4 「闘え！新人戦」

M5 「なにか足りない」 M6 「BATTLE TIME」 M7 「さびしい男のラブソング」 M8 「接戦！杏崎の想  
い」 M9 「ライバル」 M10 「歴史をつくるとき」 M11 「新しい朝」 M12 「Let's go DEAR BOYS」

※ M3、M4 のみ独唱（保科、瑞穂による）

## 9 『忍たま乱太郎』

現在でも NHK テレビで放映されており（HP → <http://www9.nhk.or.jp/anime/nintama/>）、さらに、ミュージカルとして立て続けに上演されて、勢い  
が感じられる。上演状況は下記の通り。

- (1) ミュージカル「忍たま乱太郎」がんばれ 6 年生

2010 年 1 月 13 日～1 月 24 日（全 16 公演）東京ドームシティシアター G ロッソ

- (2) ミュージカル「忍たま乱太郎」がんばれ 6 年生

2010 年 6 月 30 日～7 月 7 日（全 11 公演）東京ドームシティシアター G ロッソ

- (3) ミュージカル「忍たま乱太郎」第 2 弾予算会議でもめてます！

2011 年 1 月 13 日～1 月 24 日（全 15 公演）東京ドームシティシアター G ロッソ

- (4) ミュージカル「忍たま乱太郎」第二弾再演予算会議でもめてます！

2011 年 7 月 1 日～7 月 10 日（全 13 公演）東京ドームシティシアター G ロッソ

- (5) ミュージカル「忍たま乱太郎」第三弾山賊砦に潜入せよ

2012 年 1 月 12 日～1 月 22 日（全 15 公演）東京ドームシティシアター G ロッソ

キャストはテニミュほどではないが、すでに変更が見られ、ちなみに上記 4  
のプログラム冊子より写すと次のようになる。アニメと異なり、5 年生、6 年

生といった上級生が主役となっており、歌やアクションもそれに相応しい形に作られている。

忍術学園六年い組 会計委員会委員長 潮江文次郎…山口賢貴

「初演から4作連続で潮江文次郎を演じ、ミュージカル忍たま乱太郎第2弾からは座長としてカンパニーを率いる。」D2のメンバー。

忍術学園六年は組 用具委員会委員長 食満留三郎…前内孝文

ユニット「NAKED BOYS」のメンバー

忍術学園六年ろ組 体育委員会委員長 七松小平太…**林明寛**

テニミュ「The Imperial presence 氷帝 feat. 比嘉」の五代目海堂薫役としてデビュー。

忍術学園六年は組 保健委員会委員長 善法寺伊作…椎名鯛造

「アニメーションを原作とした作品では最遊記歌劇伝」の孫悟空、「戦国 BASARA」では森蘭丸を演じた。」

忍術学園六年い組 作法委員会委員長 立花仙蔵…南羽翔平

忍術学園六年ろ組 図書委員会委員長 中在家長次…前山剛久

「D-BOYS スペシャルユニット D ★ DATE オーディションファイナリスト。ミュージカル忍たま乱太郎第2弾に出演、(中略)8月には舞台 abc ★赤坂ボーイズキャバレー〜2回裏〜 - 喝! & 勝つ! - への出演も決定 (下略)・・・」

忍術学園五年い組 火薬委員会委員長代理 久々知兵助…阿久津慎太郎

「ミュージカル忍たま乱太郎第2弾などに出演。」D2のメンバーとなっている。

忍術学園五年ろ組 生物委員会委員長 竹谷八左エ門…白又敦

「ミュージカル忍たま乱太郎第2弾で竹谷八左エ門に抜擢され舞台デビュー。」D2

忍術学園教科担当教師 土井半助…**矢吹卓也**

「テニミュにて氷帝学園の芥川慈郎を長年演じた経歴を持つ。」

フリーの売れっ子忍者 山田利吉…**末野卓磨**

「ジャパンアクションエンタープライズ所属。」

(4) のスタッフを公式 HP より抜粋すると次のようになる。

原作：尼子騷兵衛著『落第忍者乱太郎』よりアニメーション「忍たま乱太郎」

脚本：浦沢義雄 脚本協力：松山竜一郎（亜細亜堂）

作詞・演出：横山由和 演出補：星真一郎 音楽：富気晴美 振付：酒井麻也子 殺陣：今井靖彦（JAE）

音楽上の特徴的事項としては、オリジナル挿入歌のほかに代表曲としてエンディングテーマ曲「勇気 100%」があり、そのみが馬飼野康二作曲（テレビアニメの主題歌として使用）であることが他の作品とはやや状況が異なっている。映像・音源ソフト（DVD・CD）も多数発行されており、詳細はHP <http://www.musical-nintama.com/> で知ることが出来る。

## II メディア（雑誌）における扱い

上記のようなアニメミュージカル作品に関する情報は、従来からよく知られている演劇雑誌（『シアターガイド』、『ミュージカル』ほか）で取り上げられたりもするが、その扱いは多くの演劇公演の内の1つという扱いの枠を出るものではない。それらのみに頼っているのは、日々変化する現代日本の大衆音楽芸能の姿を詳細にとらえることは難しく、それよりもアニメミュージカルを積極的に取り上げ、宣伝する役割を担っている情報誌を参照する必要があるが、アニメミュージカルに関する基本的情報源の存在は、演劇関係者はともかく、音楽研究者にはほとんど知られていないというのが実情であろうから、今後アニメミュージカルの演目、出演者、制作者などについてさらに踏み込んで、その新しさの秘密を解明分析、説明するためにも、そうした雑誌の存在自体からまず明らかにしておく必要があるだろう。目下、インターネットではなく、紙媒体として一際、注目すべき雑誌には下記のようなものがある。雑誌名のアイウエオ順に記す。

『UTA ☆ ST@R』Gakken 『エムグラ』Gakken 『オーサム』シンコー・ミュージック MOOK

『キャストサイズ』株式会社三オブックス

『キャストプリゼロ』グライドメディア 『グッカム』（株）東京ニュース通信社

『スパークル』メディアボーイ MOOK 『ドラマティックアクター』廣済堂出版

### Ⅲ 新形態のミュージカルーニコニコミュージカル

アニメミュージカルは上記のようないわゆる紙媒体において、報道、宣伝されるのみならず、インターネットを通じて広範囲に急速に広まりつつ有る状況を迎えていると言える。その中で主として上演（配信）方式の新しさと注目されるのが、ニコニコ動画で生中継するミュージカル、通称「ニコミュ」である。目下、それは下記のような作品を輩出しており、映像・音源ソフト（DVD・CD）もかなり発行されていると承知しているが、筆者は観賞、視聴する機会を得ていないため、その音楽上の特徴的事項については後日改めて言及したい。ニコニコミュージカルの HP (<http://www.nicovideo.jp/nicomu>) などからこれまでの上演作品をまとめると下記ようになる。

#### 1 クリスマス・キャロル

2010 年 12 月 22 日～26 日 全 9 公演

脚・演：湯澤幸一郎、出演：堀江貴文、宮下雄也、小池亮介、湯澤幸一郎、新谷真弓ほか

IT 企業の経営者として成功を収めたものの、社内ではお金がすべての守銭奴として恐れられているスクルージ（堀江）。クリスマスイブ、彼の前に大天使ガブリエル（新谷）が現れて…。

#### 2 ニコニコ東方見聞録

2011 年 1 月 7～12 日 全 7 公演

脚・演：石沢克宜、出演：ぼこた、蛇足、野宮あゆみ、やまだん、百花繚乱ほか

イタリアに住むニコ厨マルコ・ポコタは、遙か世界の東方にあるという幻の島日本へ行くことが夢だった。ところが天才科学者・堀衛門のロケットで到着したのは、運営と荒らしが争う戦国時代で…。

#### 3 ニコニコニーコ

2011 年 3 月 17 日～27 日 全 16 公演

脚・演：湯澤幸一郎、出演：ニーコ、稲村優奈、吉田仁美ほか



「政略結婚なんて絶対ヤダ!」と、結婚式の途中で逃げ出した、惑星ケルアックのニシハギウス共和国プリンセス・ニーコ。ところが宇宙船が故障し、地球の一般家庭のコタツの中に不時着してしまう。

#### 4 舞台劇 KOKORO

2011年4月29日～5月8日 全8公演

脚・演：石沢克宜、出演：秦みずほ、小松美咲ほか

建物を搜索に来た兵士たちによって偶然起動したロボット。そして語り出したのは、ロボットが人間と同じココロを持つことができるプログラム、「ココロシステム」についてだった。

#### 5 DEAR BOYS—Double Revenge—

2011年4月30日～5月8日 全7公演

原作：八神ひろき 脚本：三井秀樹 演出：宇治川まさなり、音楽：坂部剛、主催：ドワンゴ

出演：植野堀まこと、小笠原健、田中稔彦、山谷光博ほか

神奈川県大会新人戦決勝での敗北。2つの敗北から生じたチームの亀裂…。果たして仲間が再び1つになることはできるのか？

#### 6 カンタレラ

2011年8月3日～7日 全9公演

演出：上島雪夫、脚本：三井秀樹、大石薫夏、出演：兼崎健太郎、弟の姉、少年T (Tomohisa)、koma'n、海斗ほか

1495～1496年頃のローマを舞台に、毒薬「カンタレラ」が招く悲劇の物語。人気ポカロPである黒うさPの楽曲を原案にドラマティックな世界が広がる。

#### 7 源氏物語

2011年11月16日～23日 会場：全労済ホール / スペース・ゼロ

演出：湯澤幸一郎、脚本：喜安浩平

出演：ぽこた（光源氏）、富田麻帆（葵の上）、大河元氣（弘徽殿女御 / 惟乙）、

Kimeru（明石の姫君 / 山霧）、広瀬友祐（藤原氏）、高木俊（頭の中將 / 伊吹）、

平田裕一郎（朧月夜 / 望望）、川隅美慎（末摘花 / 吉々）、寺田有希（葵の上）、大浦育子（桐壺 / 藤壺）、

小松美咲（夕顔）、尾崎桃子（朱雀帝）、富士枝千夏（六条御息所）、大谷咲子（空蟬）、

## IV 結論

以上の情報を整理、分析の結果、アニメミュージカルの作品には冠の名称上、若干のばらつきが有る（ロックミュージカル、スーパーミュージカル、ステラ・ミュージカル）ものの、アニメミュージカルと一括りして、創作ミュージカルの新しい流れとして論じる可能性を十分に確認することができた。

まず、いくつかの作品に共通のキャストとスタッフが関わっているという点がある。総じて、そのキャストの特色は従来のミュージカル専門俳優ではないが、演劇（映画）、ダンス各分野における主役級の人材が集まっており、作曲、作詞家、振付師なども複数の演目に関わっている状況が伺えた。

次に上演方式として劇中ライブの実施や公演のライブ・ビューイングが積極的に行われていることや、ほとんどが映像ソフトを発行している点も見逃せない。それらは、野球は巨人、テレビはNHK、男性アイドルはジャニーズしか知らされなかった地方の文化状況に大きな変化をもたらすものとして注目に値する。

それから、数ある作品の中でも『テニミュ』は他を圧倒し、群を抜いており、初演、初期から見て明らかに進化している部分が見られ、その歴史を振り返ることによって、ミュージカルにおける新たなジャンルの形成とミュージカル界に与える影響という意味からも様々な興味深い問題が浮かび上がって来ることが予想される。そして、その楽曲については、演目によって明らかな変化が見られると同時に、代表的な歌、スタンダードレパートリーも生み出され、新曲も活発に生み出されているのが特徴で、これは左記のライブの実施とともにJ-Pop への影響を視野に入れる必要性が感じられる。

今後の課題としては、アニメミュージカルの隆盛とも称すべきこうした事象を、どのように現代日本の大衆音楽芸能史の中に位置づけるかという問題が考えられる。実際のところ、ミュージカルを作る側も見る側も従来のブロードウェイ至上主義、あるいは従来の創作ミュージカルの在り方への不満などがそ

の背景にあるものと推測されるが、その評価はさておき、上記のアニメミュージカルの諸作品が現代日本の大衆音楽芸能における創造的活動の一端を担っていることは、もはや紛れもない事実であり、現代日本の大衆音楽芸能史が書かれる際には、その存在を無視することは許されないだろう。直近では、アニメを原作とするミュージカルとして『薄桜鬼』の初演が控えており（HP → <http://www.maql.co.jp/special/m-hakuoki/>）、その他、同類のミュージカルの上演予定の演目はまだまだあり、その勢いは止まりそうにない！

[注]

- <sup>1</sup> 原文は「エア・ギガ」となっているが、明らかに「エア・ギア」の誤植
- <sup>2</sup> テニミュの初期の出演者の一人、小谷嘉一は舞台活動のほかに、+Plus という 4 人組のバンドを結成し活動中、鎌苅健太はココア男。のヴォーカルを務めているなど多くの例がある
- <sup>3</sup> 「テニミュ年表」を見ると、それは 2004 年 12 月 29 日～2005 年 1 月 2 日、東京芸術劇場中ホールで行われた in winter2004-2005side 不動峰 ~special match~ であることが分かる
- <sup>4</sup> <ここからが…俺達> <氷点下の情熱> など
- <sup>5</sup> 「ENCORE! ~F.G.K.S/On My Way~」 MJBD-70923、マーベラスエンターテイメント、2010 年

#### 参考資料

[文献 1 雑誌類]

大暮維人、週刊少年マガジン編集部監修『ミュージカル「エアギア」完全ガイド』講談社、2007 年

『レプリーク Bis vol.13』2008 年 12 月 阪急コミュニケーションズ

『演劇ブルミエ NO.1』誠文堂新光社、2009 年 1 月 1 日

『アブローズ vol.1』メディアボーイ、2011 年 8 月 25 日

[文献 2 プログラム冊子（作品別）]

「BLEACH 10th Anniv.Memorial Tour ROCK MUSICAL BLEACH」2011 年

「MUSICAL NINTAMA RANTARO（ミュージカル忍たま乱太郎第 2 弾再演予算会議でモメます!）」2011 年

「聖闘士星矢 SUPER MUSICAL」2011 年

「聖闘士星矢 SUPER MUSICAL 銀河公演」2011 年

「ミュージカル『テニスの王子様』青学 vs. 不動峰」2011 年

「ミュージカル『テニスの王子様』青学 vs. 氷帝」2011 年  
「ミュージカル『テニスの王子様』青学 vs. 六角」2011 年  
[DVD 映像ソフト（作品名別あいうえお順に記載）]  
「ミュージカル エア・ギア」マーベラスエンターテイメント、MJBD-70553、2007 年  
「ミュージカル エア・ギア」マーベラスエンターテイメント、MJBD-70558、2007 年  
「音楽舞踏会 黒執事」アニプレックス、ANSB-5533、2009 年  
「SUPER MUSICAL 聖闘士星矢」東映ビデオ株式会社、DESD03465、2011 年 11 月  
「ミュージカル DEAR BOYS vs.EAST HONMOKU」マーベラスエンターテイメント、MJBD-70740、2008 年  
「ミュージカル忍たま乱太郎」ジェネオン・ユニバーサル・エンターテイメント、GNBA-1327、2010 年  
「ネオロマンスステージ 金色のコルダ ステラ・ミュージカル」株式会社コーエーテクモウェア、KEBH-9011、2010 年  
「ROCK MUSICAL BLEACH No Clouds in the Blue Heavens」RMBD-0708、2007 年  
その他本文中に記載済み